

一大御所様御床揚に付、爲御祝儀、松平加賀守溜詰、應之間詰、明朔日御禮廻、居残り御祝儀申上、夫  
ハ西丸江出仕、大御所様、大納言様江御祝儀可申上候、

一鴈間詰嫡子ハ、不及其儀候、

一右之内在邑病氣幼少之面々ハ、使者等不及差越候、

一御三家紀伊宰相殿、尾張中將殿にも被居殘、御祝儀被申上候事、

右之通、大目付江申渡候間、爲心得相達候、

二月

〔柳營諸舊例の一〕一年始八朔御太刀 献上願之部

一文化五戊辰年十二月

年始御太刀献上伺

寄合

水上織部

私儀病氣罷在、御目見未、仕候得共、來年始御太刀目録、以使者献上仕度、大納言様江も同様献上  
仕度奉存候、家督後初而之儀ニ付、此段奉願候、以上、

十二月

寄合

水上織部

〔官中秘策二十三〕病後御禮之事

一快氣之節、御年寄江御案内申、自身罷越懸御目、御内意伺之、御用番江罷越懸御目、御禮之儀奉願

候、或者心易御旗本衆ヲ以、年寄江御内意伺之、任御差圖ニ嫡子ハ病後御禮之並承合、其通申上、

其後御用番江申上ル、明幾日何時登城、病氣後之御禮可申上旨、御連名之御切紙來ル、御請使者

を以申上ル、當日刻限より已前登城、月代ナ刺、常服半袴献上箱肴先、留守居持參、御玄關より上ル、目録

無之、御禮相濟退出、御老中初如例爲御禮參上、